

令和5年度 学校評価のまとめ

本年度の 重点目標	<p>すべての教育活動において生徒の特性を踏まえ、「一人ひとりを大切に」した指導を徹底し、基本的な生活習慣を身につけ、豊かな人間性をもった主体性のある人材育成を図る。</p> <p>新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びや観点別学習評価の工夫等により授業改善を図る。</p> <p>地域における課題探究的な学習を通して、課題解決に向けた実践力を身につけさせるとともに郷土愛を醸成し、地域を支える人材を育てる。</p> <p>生徒の進路意識の醸成を目指した取組と個に応じた計画的な指導を通して、進路希望の実現を目指すとともに、林業・木材産業の振興を担う人材の育成を図るため、スマート林業推進のための学びを充実させる。</p>		
項目(担当)	重 点 目 標	具 体 的 方 策	留 意 事 項
総務部	田口高校の魅力を伝える広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ウェブページを活用した行事の告知と即時性のある情報の発信。 ・「田高だより」「広報したら」への魅力ある記事の掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブページを活用して学校行事の案内や紹介に努める。また林業科の取り組みをはじめ学校の様子を適宜発信する。 ・生徒の生き生きとした様子が伝わるレイアウト、文章構成を検討し、充実した記事掲載に努める。
<p><まとめ></p> <p>保護者・教員からは8割以上が肯定的評価だったが、生徒からの肯定的評価は7割に満たなかった。今後も、広報は学校の様子が伝わるような記事の掲載を心がけ、生徒にも、スマートフォンで手軽に情報を確認できるよう学校ウェブページの改善をすすめるとともに、即時性のある情報発信に努めたい。</p>			
教務部	<p>主体的・対話的で深い学びの実現</p> <p>家庭における学習習慣の確立と充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善や教材研究、学習評価の改善と充実 ・長期休業中の学習課題への意欲的な取組に向けた指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の導入にあわせた評価方法の改善や授業の充実を図り、生徒一人ひとりの学びを充実させるためのきめ細かな指導を展開する。 ・長期休業中の学習課題に対する計画的な取組や復習を促して、基礎学力の向上を目指す。
<p><まとめ></p> <p>学習指導への肯定的な評価は、生徒・保護者とも9割前後の高い評価であった。長期休業中の課題提出指導に対する肯定的な評価についても、生徒・保護者とも9割程度と、昨年度と同様の高い評価を得ることができた。学年・クラスの別なく、全般的に評価の高い傾向が続いている。今後も学習習慣の確立に向けて、指導を継続していきたい。</p>			
生徒指導部	<p>生活習慣の確立</p> <p>いじめ防止対策の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席者指導の実施 ・情報交換会の実施 ・登校指導の実施 ・いじめ対策委員会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・不注意等による遅刻・欠席に対して個別に指導をする。 ・情報交換会を実施し、情報共有を図る。 ・登校指導や保健調査等により、いじめ等の早期発見に努める。
<p><まとめ></p> <p>アンケート結果から、遅刻・欠席者指導については職員が認識している指導や取り組みと生徒の認識に若干のズレが見られる。現在の取り組みは引き続き実施するとともに、遅刻・欠席者指導などは回数に応じて段階的指導を行う等の見える化を検討していきたい。いじめ防止対策については概ね肯定的な意見だったので、今後も継続して実施していきたい。</p> <p>また、今年度取り組んだ校則の見直しについても、適宜見直しに努めたい。</p>			
進路指導部	進路について主体的に考える態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した進路行事の計画・実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講話や模擬試験、補習、面談等、進路目標に応じた行事を計画し、実施する。 ・各学年、教科担任等と連携し、適切な指導を行う。 ・各種進路行事の実施時期や内容の見直しについて検討を進める。
<p><まとめ></p> <p>行事の計画・実施や情報の提供、また補習や面談によるアンケートでは、9割以上の肯定的な評価を得た。進路行事や補習、面談をはじめとした進路指導の内容や実施時期については、本校生徒の実情を把握した上で、より効果的なものとなるよう見直しを進めていく。</p>			

保健 厚生部	安心して生活できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の流行状況に応じた対応 ・生活環境の整備 ・生徒相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の流行状況に応じて校内での対応を検討し、実施する。 ・清掃活動に取り組みやすい環境を作る。 ・生徒への日々の声掛けと傾聴を大切にし、職員間の情報共有を図る。
	<p><まとめ></p> <p>感染症対策については、教室の換気などに心がけて取り組み、アンケート結果では保護者・教職員からは8割以上、生徒からは約7割が肯定的な評価であった。今後も引き続き感染対策と生徒の健康状態把握に取り組んでいきたい。生徒相談については、スクールカウンセラーの活用により保護者と教職員で生徒の情報を共有し、生徒理解に努めてきた。保護者では約9割、教職員においては約7割が肯定的な評価であった。生徒においても困っている時に相談にのってくれているという約8割の肯定的な評価であった。しかし、スクールカウンセラーの活用方法については課題が残っている。清掃活動においては、9割近く校内清掃が行き届いている、取り組んでいるという評価であった。</p>		
寮務部	基本的な生活習慣の確立と規律ある集団生活の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・寮規則、寮日課に基づく生活指導 ・学習時間の活用 ・寮内の環境美化 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を意識しながら行動できるように指導する。 ・課題が期限内に提出できるように指導する。 ・舎室内の整理整頓ができるように指導する。
	<p><まとめ></p> <p>アンケート結果では生徒・教職員ともに7～9割の肯定的な評価であった。特に寮の規則や日課に基づく生活指導について生徒からは10割が肯定的な評価であった。今後も多様な特性を持った生徒が入寮することが想定されるが、保護者の理解と教職員の協力を仰ぎながら適切に対処していきたい。</p>		
農場部	実習を通じた職業観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の生産、加工、製造、販売等の実習 ・農林産物を用いた研究活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性を活かした研究活動を行い、課題解決に向けた方策を主体的に考えられる指導を行う。 ・生産から販売まで一連の流れを経験させることで達成感が得られ、更なる向上心が育まれる指導を行う。
	<p><まとめ></p> <p>実習においては、農林産物の生産技術の習得から販売まで一貫した指導を意識し、生産者としての責任感の醸成と達成感の獲得を目指して授業を展開した。それにより職業観の育成が図られた。研究活動では、林業に関する課題の設定、解決方法の検討、まとめ、発表までを各専攻単位（3～6人）で取りまわせることで、一人ひとりに課題解決能力と伝える力の育成を目指した。これらの取り組みがアンケート結果（保護者から9割、生徒から8割の肯定的な意見）に表れたと考える。</p>		
第1学年	高校生活への適応と、学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明（オリエンテーション）の充実 ・基礎学力指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が高校生活に適応できるように、学校説明を充実させ、適宜面談を行う。 ・日々の課題や週末の課題などを通して、生徒が机に向かう習慣を身に付け、基礎学力を培えるように支援する。
	<p><まとめ></p> <p>高校生活に適応できるように指導しているかについては、保護者・教職員から10割、生徒から約9割の肯定的評価を得た。また、基礎学力向上に向けた適切な指導をしているかについては保護者・生徒・教職員すべてから約9割の肯定的評価を得た。日頃の生徒観察や声掛け等の丁寧な生徒指導や相談活動が実を結んでいると考えられる。また、授業や実習、課題等の指導についても生徒の実態に合わせて行うことができていると考えられる。今後も引き続き進路指導等を含めて丁寧な指導をしていきたい。</p>		

<p>第2学年</p>	<p>具体的な進路目標の設定</p> <p>地域課題解決学習の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職や進学に必要な情報の提供と、上級学校や自治体等が主催する校外活動への参加の呼びかけ ・地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学、就職で迷う生徒が多い中、進路指導部と連携して、オープンキャンパスへの積極的な参加を呼びかけるとともに、就職等に関する情報を適宜提供する。 ・教科担任と連携して日頃の学習や課題の提出を働きかけることで、基礎学力の定着を図る。 ・北設楽郡3町村および東三河広域連合などと連携し、生徒が地域における課題を設定し、その解決策を考え、その対策を提案したり、自ら活動したりできるように支援する。
<p><まとめ></p> <p>「生徒が資格試験、オープンキャンパス、学校説明会などに積極的に参加するように促し、学力向上や進路実現に向けた適切な指導・助言をしている」については、保護者・職員からは10割、約9割の肯定的評価を得た。一方、「生徒が地域の課題を見つけ、主体的に解決の方法を考えられるように指導している」については、保護者・職員が約9割に対して、生徒が5割程度と評価が高くない。これは、1年次と2年次で総合的な探究の時間の方向性が生徒にとって理解しづらいものになり、また、修学旅行を除くと、少ない総合的な探究の時間で、深い内容やそれをまとめて発表をさせることが大きな負担になり、生徒においては、高くない評価になったと考える。今後も引き続き進路指導や、資格取得については丁寧な指導を心掛けるとともに、総合的な探究の時間における地域課題解決学習においては、内容を見直していきたい。</p>			
<p>第3学年</p>	<p>進路希望の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた進路指導 ・社会人、成人に必要とされる知識等の習得の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部や教科担任等との連携を密にし、個々の生徒の進路希望に応じた指導を行う。 ・生徒に主体性と責任を持たせることを意識し、自律した行動ができるよう支援する。 ・社会人、成人としての自覚の醸成を目指し、総合的な探究の時間等を活用し、外部講師を招聘した講座を企画、実施する。
<p><まとめ></p> <p>進路希望の実現に向けた指導、また社会人としての必要な知識の習得の促進を目指した指導のいずれのアンケート項目についても、9割以上の肯定的な評価を得た。一方で、保護者を交えて進路について懇談する機会が少ないことを指摘する意見もあった。継続的によりきめ細やかな指導ができるよう、学年団のみならず、各分掌と連携しながら学校全体として改善に取り組んでいきたい。</p>			
<p>学校関係者評価を実施するおもな評価項目</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「学習習慣の確立と充実」と「規律ある生活習慣の確立」 ・望ましい職業観・勤労観に基づいた、個々の生徒の主体的な「進路意識の向上と進路希望実現への取組」 ・「地域に根差した学校づくり」の推進 ・心身の健康と安心して生活できる学校環境づくりへの取組 	
<p>総合評価</p> <p>新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染対策を講じつつも制限のかからない教育活動を実践することができた。重点目標には、田口高校のモットーである「一人ひとりを大切に」した人材育成、学習指導、課題解決学習、進路実現が盛り込まれ、各分掌、学年会等で重点目標に沿った教育を展開した。アンケート結果からは、概ね良好な評価を得た。</p> <p>コミュニティ・スクールに指定されて3年目を迎え、学校運営協議会で議論された地域との協働においては、4年ぶりに公開開催とした文化祭において、設楽町観光協会による巨木展やキッチンカーの受け入れなど成果を上げることができた。情報発信においては、スマートフォンによる閲覧に対応したホームページのリニューアルやSNSの活用を進め、運用開始することができた。また、より地域との連携を図るために令和6年度からの地域学校協働本部の立ち上げに向けた準備も着実に進めることができた。</p> <p>年度末に連携中学校1校が閉校となり、令和6年度は3中学との連携となる。少子化が進行し、生徒数の減少に歯止めがかからない中ではあるが、引き続き、地域と連携して学校の特色づくりに引き続き取り組んでいく。</p>			